

【報道資料 2020年10月22日】

一般社団法人日本実業団陸上競技連合

クイーンズ駅伝 in 宮城 第40回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会

新型コロナウイルス感染症対応策 概要

(詳細版は「ガイドライン第3版」=11月10日ごろに公表予定=ご参照)

(プリンセス駅伝に向けた「ガイドライン第2版」は当連合HPに掲載)

※大会要項の【はじめに】でも感染症への対応策を記載しております。ご参照ください。今大会は、通算40回、宮城開催10回目の節目で、当初は記念大会枠として出場チームを「プラス6」とし、計28チームで予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染症への対応策として、この記念大会に伴う増枠は、来年の次回大会に持ち越すこととし、今大会は例年と同じ「22チーム」にて実施します。

■スタート・フィニッシュ地点、コース沿道での応援・観戦の自粛を呼びかけ

出場チーム企業による現地での応援を自粛します。出場チームは、エントリー時点(11月23日(金)締め切り)で「応援自粛協力への同意書」を提出し、提出がないチームの申し込みは受け付けません。

当日、現地での応援行為が確認されたチームにはペナルティーを科します。

開催地の地域の方々、一般の駅伝ファンの皆さんにも、現地での観戦を控えていただくよう協力を求めます。

(10月18日に開催した予選会「プリンセス駅伝」では出場28チームすべてから同意書が提出され、当日の違反行為も確認されなかった。地域の方々の協力があり、沿道で「3密」になる状態が起きることを防ぐことができた)

■チェックシートによる体調管理の徹底

大会にかかわるすべての関係者は、大会前1週間(11月15日(日)～21日(土))の検温をはじめとする12項目のチェックなどを通して体調管理に万全を期す。

発熱などの体調不良が確認された者は、県外者は宮城への帯同を控え、県内在住者は競技会場への来場を控える。

体調管理チェックシートは大会当日(11月22日(日))にも提出。

大会終了後2週間(11月23日(月)～12月6日(日))も体調を経過観察する。

(9月開催の全日本実業団対抗選手権大会、10月開催のプリンセス駅伝とも、事前の周知徹底により、体調不良者が競技会場に来ることはありませんでした)

■競技会場での検温の徹底と発熱者の入場を禁止

競技会場エリアに入場する際、すべての人たちを対象に検温(非接触型検温器)を実施し、「37.5℃」以上の発熱が検知された人たちの入場を禁止する。

競技会場では、競技中の選手以外は必ずマスクを着用し、こまめな手指の消毒、手洗いを励行する。

■「3密」を回避した会場設営、大会運営

スタート・フィニッシュ地点、中継所への入場者をIDカードコントロールによって制限する。IDカードの発行枚数も上限を設けて総数を抑制する。

表彰式は例年のホール（屋内）開催をやめ、陸上競技場の屋外で実施する。式典進行を簡素化・短時間化する。一部表彰の手順を省略し、賞状・副賞の授与を省略して後日チームあてに送付。出席者を、表彰対象となる8位入賞チームの代表者と区間賞受賞者に限定するなど、少人数化を図る。贈呈側の出席者数も最小限に抑え、出席者全員がマスクを着用する)

(例年の表彰式は、出場22チームの全員が出席し、屋内のホールで開催)

■更衣室の適正利用による「3密」防止

スタート地点、並びに各中継所の更衣室の利用に際しては、出場する選手以外では付き添い1名のみ入室を認める。利用も短時間ですませ、更衣室内が「3密」状態になることを避ける。

■計時チップとアスリートビブスはチーム単位で後日回収

計時チップが装着されているアスリートビブス（ナンバーカード、ゼッケン）

は、チーム単位で後日、まとめて計時を担当するシチズンT I Cに返送する。

(例年は、中継所、フィニッシュ地点で競技補助員など大会スタッフが選手ユニフォームから取り外し、チームが表彰式前にまとめて返却していたが、今回は、取り外しもチームで行い、大会会場での直接回収はしない)

■取材申し込みはすべて事前申請制

記者用ワーキングスペースを設けるフィニッシュ地点の競技場内や、撮影場所、ミックスゾーンでの「3密」状態をあらかじめ避けるため、取材申し込みはすべて事前申請制とする。1社あたりの上限を設け、来場者の総数を抑制する。

(詳細は11月5日ごろにご案内予定の「取材要項」にてお知らせします)

■優勝チームの記者会見をオンライン化

優勝チームを対象とした記者会見はオンライン会議方式で実施する。2位以下のチーム、選手への取材は、チーム側の同意を得たうえ、ミックスゾーンで十分な社会的距離(ソーシャルディスタンス)を確保し、取材側、選手・監督側もマスク着用で実施する。

■オンライン会議を活用した大会準備

大勢の関係者が実際に集まる会議、打ち合わせ等は控え、オンライン会議等を活用して準備を進める。実際に集まる場合は、「3密」回避を徹底する。